

科目名	吃音					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する									
【実務者経験】 言語聴覚士として愛仁会リハビリテーション病院、大西リハビリテーション病院に勤務。									
【授業全体の内容の概要】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 吃音についての特性を説明できる。また、言語聴覚士として症状に適した対応を説明できる。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	吃音・流暢性障害の定義								
2	発達性吃音と獲得性吃音								
3	吃音発生のメカニズム								
4	吃症状（その1） 発話症状								
5	吃症状（その2） DAF効果実験								
6	吃症状の特徴把握								
7	吃音患者に対する情報収集								
8	発話の評価								
9	心理面・性格特徴の評価								
10	訓練の種類と理論的背景								
11	環境調整								
12	間接的言語訓練								
13	直接的言語訓練								
14	セルフヘルプグループ								
15	吃音のまとめ								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学									
【準備学習・時間外学習】 授業の予習復習を行ってください									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。									